

揖斐郡教育研修センター通信

令和7年1月31日

～揖斐郡教育会研修総会でのプレゼン発表・シンポジウム・講話から学んだこと～

1月23日(木)の令和6年度揖斐郡教育会研修総会では、郡内各小中学校の教職員の皆様、各町の教育委員会の皆様にご参加いただくとともに、350名近い方にアンケートのご回答いただき、ありがとうございました。

アンケートの回答を集約した「揖斐郡教育センター通信 郡教育会研修総会特集号」を作成致しましたので送付致します。ぜひご覧ください。

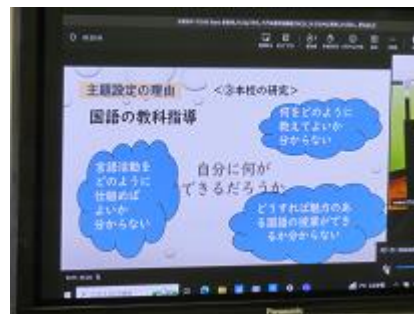
また、郡教育会研修総会の様子は各校に配付しました「令和6年度郡教育研究実践論文集」に掲載するとともに、郡センターHPにもアップしてあります。日常の実践での活用や令和7年度に教育研究実践論文に取り組まれる際の参考にしていただきますようお願い致します。

■令和6年度揖斐郡教育会研修総会参加者の経験年数

3年未満	21.3%	4～6年	9.6%
7～10年	9.1%	11～20年	19.3%
21～30年	15.2%	31年以上	26.9%

① プレゼン発表を聞いて学んだことや自分でも生かしてきたいと思ったこと

- 課題が児童にとって必然性のあるものという点は、どの教科でも大切だと思っています。また、単元のねらいや言語活動とを繋いで、実践されているところが参考になります。児童の思考の流れをより具体的に考えることで、実際の指導に活かすことができ、毎時間の児童の姿(出口)をより具体的にイメージしきること、指導もより具体的にできます。指導と評価の一体化が図られていることなど自分の教科でもできると思いました。
- 単元で付けるべき力を明確にすること、各単位時間の役割を明確にすること、評価規準を児童と共有することがとても大切であることを学びました。
- 自分の語彙力を発揮して学びを言葉でまとめたり振り返ったりすることは、どの教科でも児童・生徒が苦手意識をもちやすいため、自分の専門教科でも単元の出口や働かせるべき見方・考え方を自分自身が理解して授業を行うことを心がけたいと思いました。また、日常的に語彙力が高まる展開の工夫を行いたいと思います。
- 各単位時間が担っている役割を明確にした単元構造図を作成することで、「知識および技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力」の3本の柱に対して、どのように関わっているのかが分かりやすく、そして明確になるのだと学びました。また、児童のやる気を出すための評価をするために評価方法を改めて考えることで、児童自身が苦手という意識から少しずつ変化していくのだと分かりました。
- 生徒が学習後に本時学んだ内容がどのような力か、どのような場面で使うことができるかの認識をもたせることで、学ぶ意義の明確化ができることがわかった。中学校では学習内容の多さや、進度のために学びっぱなしになっていることが多いので気をつけたいと思いました。
- 児童生徒の学びをより深めるための、掲示物の活用の有効性について改めて実感しました。生徒の学びには、学びに向かう環境を整えることが大切であり、そのために教室や特別教室の掲示の在り方について、改めて考えていきたいと思います。
- 国語科を通して、言語能力を身につけるためには様々な実践方法があると学びました。音読の仕方の工夫や、掲示物で日常生活の一部にすることで、子どもたちが「勉強させられている」という感覚ではなく、「いつのまにか学習が身に付いている」という感覚につながり、前向きに学べるのではないかと感じました。今後に生かしていきたいと思います。
- 子どもが自分で活動に意味づけをする授業を行ってきたいと思いました。
- 「単元を貫く課題」を明確にした指導計画をすることで生徒の学習に影響することがわかり、今後も単元を貫く課題は設定しながら、かつ、生徒にも提示していきたいと思いました。
- 生徒の学力向上に掲示物が有効であったやICT活用を積極的に行っていると聞いて、先生方が実践できる環境を整えていきたいと思いました。
- 専門職でない先生の悩みを、ともに解決しようと実践される姿が素晴らしいと思いました。評価場面の工夫をし、児童に提示することで、児童にまとめた内容をどのように記入したらいいのかが「明確になり、教師の意図したまとめた内容が出てくるようになります。これは教科だけでなく、他教科にも活用できる方法だと思いました。自分も頑張りたいと思います。
- 言葉からイメージを広げて考えたり、自分の思いを適切な言葉で表現したりすることが苦手な児童が増えてきていると感じています。杉山先生の「語彙力を高め、活用する」指導・支援の実践を、ぜひ取り入れていきたいと感じました。また、家庭学習とつなげていくことは、確実に力を身に付けていくことにつながります。「楽しんで取り組める音読」を真似していきたいです。



② シンポジウム発表を聞いて学んだことや自分でも生かしていきたいと思ったこと

- 松浦先生の教師ひとりひとりの強みや良さを活かす、それを学び合うための研修が素晴らしいと思いました。これなら日常的に気軽にできるのではないかと思います。また、教師に必然性があれば、自分から学ぼうと思い、負担には感じません。
- 児童生徒がより力を付けるための取り組み、また学校の力を高めていく具体的な取り組みが分かりました。今後は、教材研究、児童の把握、メディアの活用、学校全体で協力して行っていくことを大切にしていきたいです。
- 江崎先生の「対話活動におけるグループ化の工夫」、秋江先生の「目的を明確にしたツールとしてのICT機器の活用（児童生徒の興味関心の高まりにつながる場合があること）」、松浦先生の「校内で教職員が互いに学びあえる環境の重要性や研修の身近化」が素晴らしいと思いました。
- 研修主事の松浦先生のお話がおもしろかったです。職員が必要な時に、必要としている職員研修をしくむことが大切だと思いました。楽しさも大切だと思いました。
- ICTには多様な活用があり、効果的に使用することで、授業だけでなく先生方の資質向上にもつながることが分かり、論文を読みたいと思いました。
- 各校の実態に応じて先生方が工夫されていた。勤務校の教科の実態に応じて題材や指導方法などの精選を行っていきたいと思います。
- AIや書籍、学校の職員から学び、授業改善をして見えるところが勉強になりました。新しいことにチャレンジし、楽しく効果的に学べることを考えていきたいです。
- 質問形式で聞きやすかったし、3人の先生方の考えを比較しながら聞いたのでよかったです。学校で取り組んでいる研究を、自分でさらに追究されている若い先生方の姿に感銘を受けました。
- 英語の発音などの学習では、自分もAI・ICTを積極的に活用していきたいと思いました。
- 若手の教員が増えてきているので、校内研修の充実を通して、教科指導力や生徒指導力、学級経営力、保護者対応のスキルなどを向上させていくのは、とてもよいことだと思いました。
- 秋江先生の「教師は学びを楽しむきっかけを与える存在である」というのに共感しました。専門教科は違いますが、導入を工夫したり、児童が興味を持てる具体例を示していきたいと思いました。
- 生成AIを有効に活用できるよう、プライベートでも、生成AIの研修に参加する機会を作りたいと思いました。
- 実践論文を通して自身の指導力が上がるとともに、児童の成長が見られたようで、双方にとって意味のあるものだったことが分かりました。



③ 総会の中での話（教育会会長様・小中校長会長様・審査員長講評・教育センター所長様の話）を聞いて学んだことや自分でも生かしていきたいと思ったこと

- 審査委員長講評の中で、今日的課題として、「自らの力で課題を解決していく力を育むこと」とありましたが、その通りだと私も感じており、日々、社会科学習指導の中で心がけています。また、松浦先生が研修主事として、職員に必然性があり効率的かつ効果的な研修を目指して実践されたことは、私も研修主事であるため参考になりました。
- 日々、日本の教育が変化していることから、自分の学びを止めることなく学び続けていきたいです。それが子どもの成長に繋がると信じて日々子ども達のために頑張っていきたいです。
- 教育会会長様の「社会を作る一因となる児童生徒を育てる」という言葉のように、未来の姿から逆算して、現在の学年・教科・単元等でどのような指導を行うべきかという長期的な視点で取り組むことが重要だと思いました。
- どの方の講話にも共通しているのが、「目の前の子どもたちを大切にする」ということであると思いました。教師のアップデート、資質能力、いずれも子どもの実態を把握し、対応していきたいと思います。
- 今回、教師3年目で初めて論文を執筆する機会をいただきましたが、言葉にしたからこそ成果・課題を実感することができたので、それを生かして取り組んでいきたいと思います。
- 今年度実践論文を書いたので、中島校長先生の話聞いて、自身の論文の結論が書ききれなかった、根拠を示しきれなかったと改めて思いました。機会があればまた再度論文にまとめたいと思いました。
- 香田教育会長様の話の中で、中学生が町づくりに対する意見や町制に対する課題や要望を強く持っているという話から、小学生の内からそのような意識をもたせていかなければいけないと強く感じました。
- 論文を執筆する際の重要な点において、研究・実践の一貫性について触れられており、実践の結果の考察、研究の成果等を具体的に筋道の通ったものにする重要さが分かりました。
- 揖斐郡の先生方が、子ども達をよくしたいと実践したことが論文として見ることができるので、それを共有していくことで一緒に揖斐郡の教育をよくしていくために自分も頑張りたいと思いました。
- 地方創生の取り組みにおいては、地域で活躍できる人材の育成が重要であり、学校教育が担う役割の重要性を改めて感じました。学校だけでなく行政も主体的に取り組む、連携しながら進めていくことが大切だと感じました。